

3. 漁況予報調査研究費

1) 平成12年度アユ資源調査結果概要

大山明彦・田中秀具・鈴木隆夫・酒井明久・吉岡 剛

【目的】

琵琶湖産アユは琵琶湖漁業のみならず、河川放流や養殖用種苗としても重要である。当場では湖産アユの資源状況を把握するため、継続的に資源調査を行っており、本年度も同様の調査を行った。

【方法】

魚探調査、産卵調査、ヒウオ生息状況調査、漁獲体型調査をこれまでと同様に行った。

【結果】

1. 魚探調査

1～4月までの魚群数はそれぞれ平年比505%、382%、240%、434%といずれも過去10年間で最高の値となったが、1～3月に観察された魚群には、ワカサギなど他魚種が混在する可能性が示唆された。このことについては孝橋ら(2000)*が報告している。5～8月までの魚群数はそれぞれ平年比145%、124%、80%、28%となり、月を追うごとに減少し、7～8月は平年を下回った。

2. 産卵調査(8月29日～11月1日)

河川状況は第1～2次調査まで各河川とも非常に水が少ない状態であったが、第3次調査以降は回復した。

産卵は第3～5次調査で確認され、そのピークは第3次調査前後の9月中旬であったと推定され、平年並みの時期となった。

総有効産着卵数は約134億粒で平年比66.6%となり、過去9年間で5番目に少ない量であった。

3. ヒウオ生息状況調査

ヒウオの一曳網当たりの平均採集尾数は、第1次調査で419尾(平年比188%)第2次調査で157尾(同67%)第3次調査で20尾(同16%)となり、時間の経過とともに平年値を大きく下回った。平均体重は第1次調査で24.1mg、第2次調査で50.1mg、第3次調査で74.8mgとなり、調査日と平均体重の関係を見ると、成育状況は平年並みと言える。

4. 漁獲体型調査

エリ漁獲アユの平均体長は、全ての月で平年並みか平年をやや上回った。ヤナ漁獲アユの平均体長は、3～4月で平年比86.2%、98.0%と平年を下回ったものの、5月は113.3%、6月105.0%、7月100.3%、8月113.9%と平年並みか平年をやや上回った。平均体重は、エリ漁獲アユ・ヤナ漁獲アユともに、平均体長の場合と同じ傾向であった。

*孝橋賢一，田中秀具，片岡佳孝：アユ魚探調査における魚群像と沖曳網・刺網採捕結果との比較。平成11年度滋賀水試事報，90-91

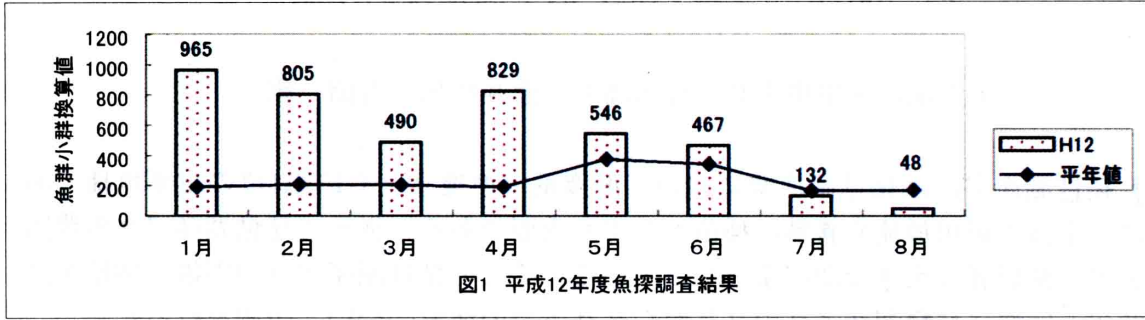


表 ヒウオ生息状況調査

	調査日	一曳網平均採集尾数		
		平成12年	平年値	平年比(%)
第1次調査	10/27,30	419	223	187.9
第2次調査	11/27,29	157	234	67.1
第3次調査	12/18,20	20	122	16.4

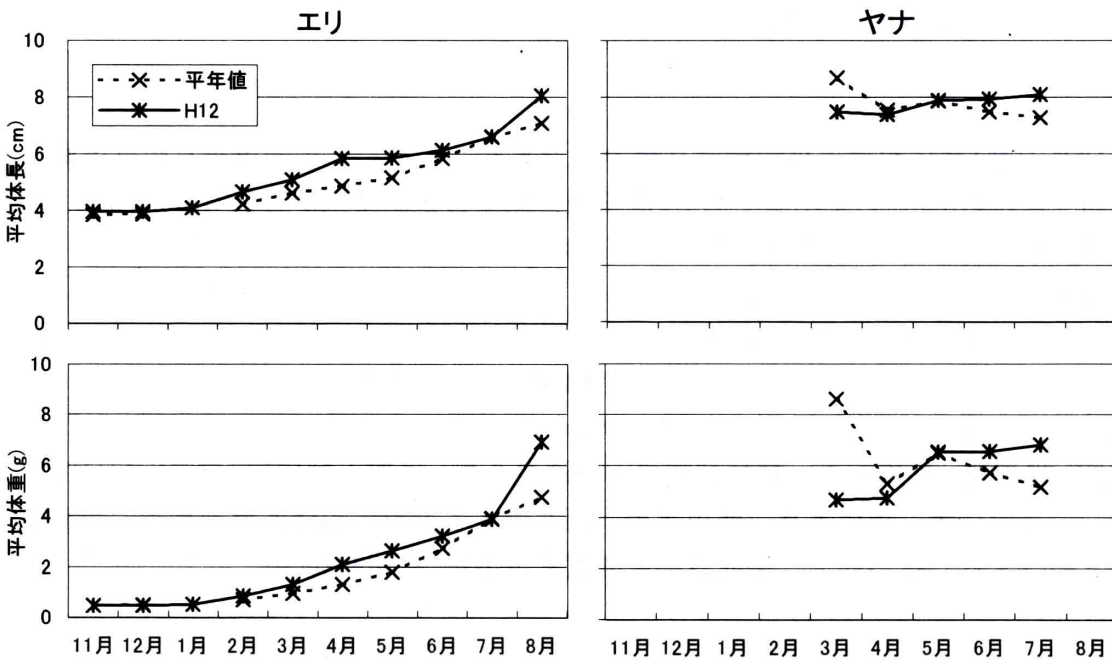
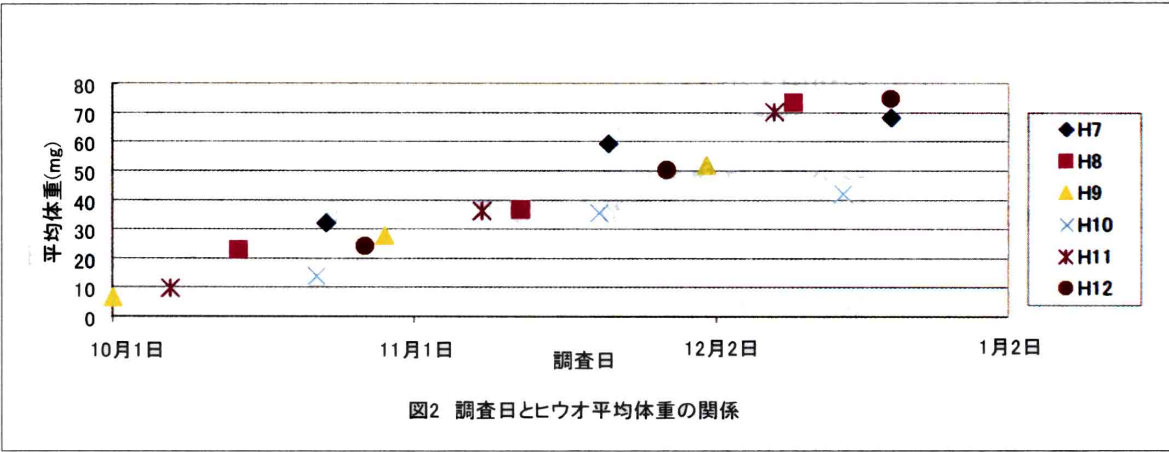


図3 エリ・ヤナ漁獲体型(平均体長・体重)の経月変化